

「伝えたいこと～椋 島十～」展開例

1 主題名 善意や行為にこたえる感謝のこころ 【内容事項 2-（6）感謝】

資料名 「伝えたいこと～椋 島十～」

2 本時

(1) ねらい

- 多くの人の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝する気持ちをもつ。
- 今までの自分の頑張りを支えてくれたものは何かを考え、自分の本当の気持ちと向き合う態度を養う。

(2) 実際

過程	主な学習活動と予想される反応	時間	教師の働きかけ
気付く	<p>1 これまでの生活の中で、一生懸命頑張った経験とその時の心情について考え、発表する 「今までに一生懸命頑張ったという経験はありますか。そのときはどんな気持ちで頑張ることができたのですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の練習 習い事 体育祭の応援団 頑張ろう。 自分の好きなことだから <p>2 学習のめあてを確認する。 頑張る気持ちを生み出したり支えたりするものは何だろう。</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> 普段の生活の中で生徒が頑張っている様子を写真で見せたり、アンケートの結果を見せたりして、自由な雰囲気で発表させる。 本時のめあてを明確にすることにより、生徒が学習に見通しをもつことができるようとする。
とひこえる	3 彦穂の気持ちを考えながら範読を聞く。	5	<ul style="list-style-type: none"> 彦穂の気持ちや行動を考えさせながら聞かせる。 学習のめあてを意識させながら、資料の中に線を引かせ、彦穂の思いを考えさせる。
深める	<p>4 彦穂の気持ちについて考え、発表する。</p> <p>(1) 小説や詩を書き始めた頃の彦穂の気持ち 「小説や詩を書き始めた頃の彦穂は、どんな気持ちだったのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 頑張っていい作品を書きたい。 感動を伝えたい。 <p>(2) 児童文学を書くことを決意したときの彦穂の気持ち 「児童文学を書くことにあまり乗り気でなかった彦穂が児童文学を書くことを決意したのはなぜだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ハイジ」から受けた感動や小さいころ経験した自然の美しさを子どもたちに伝えたいと思ったから。 須藤さんが信じ続けてくれたので、これにこたえたいという強い気持ち 	18	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が普段の生活の中で感じている気持ちとのつながりを意識させ、共感的にとらえられるようにする。 作者の気持ちの変容の理由について考えさせ、ワークシートに記入させる。 個人⇒グループ⇒全体の順で意見交流を行い、本時のねらいに迫っていくことができるようとする。 考えが進まない生徒、グループに対しては、助言を行う。
振り返る	<p>5 自分を振り返って考える。 「頑張る気持ちを生み出したり、支えたりするものは何か考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 周りの応援してくれる人の気持ちに応えたい。 友達、親の支え。 自分の頑張りが、家族の励みになる。 <p>6 授業の感想を考えて書く。 「本時の授業の中で感じたことや考えたことなど、感想を書こう。」</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> 資料を閉じさせ、自分自身の気持ちと向か会うように指示し、ワークシートに記入させる。 自分の考えを書いているか、机間指導を通して確認する。 自分自身の考えを発表させる。 本時の授業の感想を書き、これから的生活に意欲をもだせる。
つなげる	7 授業の感想を考えて書く。	5	<ul style="list-style-type: none"> 教師の体験談を話す。



本資料は鹿児島県教育委員会の編纂した『不屈の心』に収録されている「伝えたいこと」を基に本文を改作したものです。1単位時間の中で十分に生徒が対話活動を通して考えることができるよう、本文に合わせて展開例も手を加えて作成しております。

「伝えたいこと～椋 島十～」板書・発問例

普段の生活の場面で頑張っている生徒の写真

部活動の練習
習い事
体育祭の応援団

頑張る気持ちを生み出したり、支えたりするものは何だろう。

「伝えたいこと～椋 島十～」

小説や詩を書き始めた
・小・中学校の担任の先生
・幼い頃の体験
↓美しい自然
そこで生きる人々
戦争…好きなことが書けない。→生活が苦しくなる。

「児童文学を書いてみないか。」

須藤さん
頑張っていい
作品を書きたい
感動を伝えたい

「児童文学なんて…」

「児童文学を題材とした児童文学を書くことを決意する。
自分の気持ちを伝えてくれる人がいる。
その人の気持ちに応えたい。」

児童文学者・椋 島十の誕生

頑張る気持ちを生み出したり支えたりするものは：
・周りの応援してくれる人の気持ちに応えたいと
いう気持ち。
・友達・親の支え
・自分の頑張りが家族の励みになる。

- アンケートの結果などを基に、普段の生活の中で頑張っていると感じていることやそのときの気持ちについて考えさせる。
- ※ 導入で発表させた生徒が普段の生活の中で頑張っているときの気持ちとのつながりを意識させてもらうようにする。
- 戰争が始まり、自分的好きなものが書けなくなり彦穂の生活が苦しくなっていったこと、その中で須藤さんが彦穂を信じて「急げ貢」まで渡して援助してくれたことをおさえる。
- 須藤さんから「児童文学を書いてみないか。」と言われながらも、あまり乗り気になれない彦穂の気持ちを表情絵からとらえる。
- 乗り気でなかつた彦穂が決意し、「児童文学者・椋島十が誕生したことをおさえる。
- あまり乗り気でなかつた彦穂が、児童文学を書こうと決意した背景にある気持ちについて考える。
- ※ まずは、一人で考えさせ、ワークシート等に記入させる。
- ※ 一人一人が自分の考えをもつた上でグループを作り、このときの彦穂の気持ちについて意見を交流させる。
- ※ 全体で意見を集約し、本時でどうえさせたい価値に気付かせるようにする。
- 授業を振り返り、頑張る気持ちを生み出したり、支えたりするものについて自分なりにまとめさせ、感想を書かせる。
- まとめや感想を発表させる。
- 教師の説話（体験話等）を聞かせる。



対話活動を通して考えを深めたり広げたりさせるためには、前半部分を丁寧にやり過ぎないことが大切です。また、対話活動を行う際には、教師も各グループを回り、生徒が考えていることを把握するとともに、ねらいに迫ることができるよう意図的な問い合わせや問い合わせを行っていくようにすることが大切です。

TTで指導する際には、その後の全体で集約していく時に意図的に指名したり、集約しやすくしたりするために注目すべきグループの情報を教え合うなど、指導の中でも連携を図ることができるようにしておきたいものです。